



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

新型コロナウイルス感染症～約1年たって～

[当法人評議員]

東京医科大学八王子医療センター

松下 隆哉 [医師]

このMANO a MANO巻頭言は締め切りの2021年1月7日に書いています。WHOから中国・武漢で2019年末に発見され、わが国でも感染第一例が2020年1月に報告されています。本日1都3県で緊急事態宣言が出されます。本日1月7日にGoogleのCOVID-19 感染予測(日本版)をみると東京都は陽性者数は、1月19日がピークで約5600人、その後減り続け、2月1日約3700人で、死亡者数は現在一日3-5人ですが、右肩上がりに増え続け2月1日208人となっています。このMANO a MANOが発行されるのが2月1日ですから、この予想が裏切られ、陽性者数や重症者が増えないことを望んでいます。

さて、人間はこの地球上で生きながら、人と人、国と国との距離を縮めることによりグローバル社会となり、経済的にも発展していました。そんな中に新型コロナウイルスは発生し、容易になった人の国から国への移動に乗じて新型コロナウイルスは世界中に伝播しました。特に、グローバル社会の中心の欧米では感染がより酷いのは周知の通りです。フラットな社会を作り出して豊かさを甘受していた我々は、それに抗う手段がなく、病気や生死と経済を比較する議論を行っています。もちろん、医学もこの中進歩しております。感染症の診断にPCR検査が導入され、皆がPCR、PCRと叫ぶ世の中になりました。セントラル・ドグマを知らない人たちがPCR検査の必要性を説くのも時代が変化しているのでしょうか。また、ワクチンの開発も超トップスピードで行われています。人類初の遺伝子ワクチンです。重症感染症には使用がはばかられていたデキサメサゾンが、有効な治療薬であることがわかったのも非常に興味深いです。

当初WHOは、『人から人への感染は認められていない』『マスクは効果がない』などとも発表していました。WHOを非難したいのではなく、医学情報はこのようなものであるのです。『・・・ない』は、否定ではなく、まだわからないということなのが、今回の新型コロナウイルス流行でよく理解できたのではないのでしょうか。

ウイルスも人間と同じようにこの世に生きていますし、ウイルスがなくなる前に人がなくなるような気もします。新型コロナウイルスに勝つというのは、おこがましいとも思いますが、落ち着いて欲しいというのも本心です。コロナウイルスはほとんど、風邪ウイルスというはお聞きになっていると思います。ヒトコロナウイルスOC43は、その変異の速度から分子時計を求めると、1890年頃に出現したことがわかっています。1889-1990年にウズベキスタンからロシアで発生したインフルエンザと考えている流行が、他のインフルエンザより流行の拡大が早く、神経系症状があることからこのOC43が原因ではないかとも言われています。この流行も2年ですし、スペイン風邪も2年です。あと少なくとも1年程度は我慢が必要なんではないでしょうか。さらに時間が必要でしょうか。遺伝子ワクチンがその自然史を変えてくれるのでしょうか。

我々、医療従事者には大変な時期です。皆様どうぞお身体を大切にしてください。医療だけでなく人類の大転換点になるかも知れません。また、お目にかかり笑って話せることを祈っています。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部変更しております。)

問題 食事療法に関する患者の発言のうち「効力予期」が低いのはどれか、2つ選べ。

1. 「食うなど言われれば食べないでいられますけど、どこも体調は悪くないのでね」
2. 「食事が大事なのはよくわかっています。でも、どうしても間食がやめられなくて…」
3. 「食事に気をつけたら血糖も下がってきたし、これなら続けられそうです」
4. 「どうせ糖尿病は治らないんだし、こんな食事じゃ腹が減ってがまんできないよ」
5. 「言われたとおりには食事は守ってるのに、血糖はちっとも下がりにくい」

(答えは2ページにあります)





第63回日本糖尿病学会年次学術集会

令和2年10月5日(月)～16日(金)

Web開催

[当法人理事]

国家公務員共済組合連合会 立川病院
矢島 賢 [医師]

第63回日本糖尿病学会年次学術集会は2020年5月に滋賀県大津市で開催される予定だったが、コロナ禍のため延期され同年10月5日から10月16日までWeb配信とのハイブリッド開催となった。開催に携わられていた関係者の方々は前代未聞の状況下であって大変なご苦勞をされたことと思うが、昨今の糖尿病学会の参加にあたりいくつかの懸念を感じていた私にとっては今回のWeb開催でそれらの点が払拭され非常に有意義な学会となった。

一つ目は宿泊の問題。1万人近い参加者が一同に集う学会とあって宿泊施設が豊富な大都市での開催でないと支障をきたすのではという意見もあるなか大津市での開催となっていた。毎年そうではあるものの今回は予想通りどこも満室でいささかあやしげな施設を予約したため開催延期の報告を受けるまでは不安で仕方がなかった。

二つ目はセッションや演題が大量でブッキングしてしまい参加できなかったという点。これは今回オンデマンド配信になったことでほとんど全ての講演・発表を視聴することが可能となった。そのためこれまで参加してこなかった領域のセッションを視聴する機会にも恵まれ多くの領域での知見を得ることができた。それだけでなくWeb配信ならではの一時停止や早戻し、速度調整機能により聞き逃しがなくなり、メモを取る時間や頭を整理する時間が確保でき、視聴時間も短縮できるようになるなど充実した視聴となった。また質問コーナーが設けられたことでより充実したディスカッションが可能となったことも大きな利点だと感じている。話題としては新規糖尿病薬の話(イメグリミン、GLP-1/GIR受容体作動薬など)、厳格な血糖コントロールにより自律神経障害が改善するという期待、クジラインスリンを使用していた話、インスリン自己注射が違法であったという時代背景、魚類は炭水化物を摂取しないがインスリンを保持していること、魚類にOGTTを行った際のデータ、DKAでアルコール探知機が誤認識をきたしたという発表、当地域の朝比奈先生のセッションでは父性原理、母性原理という概念が印象深かった。また夏に多くのDKA/HHS症例を経験した私にとっては武蔵野赤十字病院、立川相互病院からのDKA/HHSの発表は興味深く感慨深いものであった。

三つ目は開催会場への移動。開催地の町並みや雰囲気を感じることも学会の醍醐味ではあるが、シャトルバスの待ち時間や混雑、徒歩での時間や移動距離、セッションの途中で退出するといったストレスがなくなったことはよかったと思う。

おそらく次回の学会もWeb配信となるだろう。開催期間が12日間とやや短かったので次回はもう少し延長してもらいたい。

読んで
単位を
獲得しよう

答え 2, 4 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

効力予期(Efficacy Expectation)とは、ある結果を生み出すために必要な行動をうまく行うことができるという確信のことである。つまり糖尿病の食事療法に置き換えると「良好な血糖コントロールを得る、という結果を生み出すために食事療法をうまく行うことができるという確信」となる(実際食事療法ができていないかどうかは問わない)。

1. × 「食べないでいられる」と言っているため、効力予期は高い。
2. ○ 「間食がやめられそうもない」と感じているため、効力予期は低い。
3. × 「続けられそう」と発言しているため、効力予期は高い。
4. ○ 「腹が減って我慢できない」と発言しているため、効力予期が低い。
5. × 「食事は守っている」と言っているため、効力予期は高い。



第63回日本糖尿病学会年次学術集会は新型コロナウイルス感染拡大により、5月滋賀開催予定が2020年10月5日～16日の2週間、Web開催となりました。登録参加数は1万人を超えたとの報告でした。Web開催、私自身は子育て中の事情もあり、(昼・夜学食利用が多かった大学生の息子はコロナ拡大後、遠隔授業で常に自宅におり、毎朝私は苦手な食事作りに追われています)自宅のPCから西東京の皆様の演題含め、好きな演題を何度も視聴でき大変有難いと感じました。ただ、毎年会場で感じる臨場感や緊張感が薄れてしまい残念だなども感じました。

プログラムで特に興味深かったのは緊急特別シンポジウム「COVID-19～我が国の現状と糖尿病診療との関わり～」です。永寿総合病院で実際に起きていた出来事、データ等そこから得られた渥美先生の知見、視点の講演は大変心を動かされるものでした。自身の職場で患者支援として今何ができるのか？感染対策やシックデイ支援について再考していきたいと思いました。シンポジウム7「糖尿病に関する遠隔医療の展開」についても興味深く拝聴しました。診療報酬の問題や対面診察や検査ができない為、糖尿病診療には不向きとの意見、最近はデータ送信可能なCGM機器の登場により使用方法によっては有用となる可能性もあるとの見解もありました。医療者はいつの時代も学び続け、新たな事にチャレンジし続ける姿勢が大切だと変化(進化)した学会を拝聴しながら改めて思いました。

【当法人評議員】

多摩センタークリニックみらい

菅原 加奈美 [看護師]



新型コロナウイルス感染症で世の中が一変しました。いつも当たり前のように過ごしていた日常生活、仕事、研究会の活動、すべてが新たな様子を余儀なくされ、会議や研修会はオンライン、なんと学会までもオンラインという未だ経験したことのない方式での開催。例年は5月ですが、今年は10月5日～16日までの2週間のオンデマンド配信と2日間のライブ配信の2本柱での開催となりました。

この状況下、緊急特別シンポジウムとして、「COVID-19～我が国の現状と糖尿病診療との関わり～」がプログラムに加わり、アンケート調査より、①外来通院中の2型糖尿病患者において、ストレスの増大、運動量の減少、食事・間食・惣菜摂取の増加に関連を認めた。②運動量の減少や間食の増加が、体重の増加やHbA1cの悪化と関連した。③これらの関係は、特に65歳未満の患者や元々運動習慣を有していない患者で顕著であった。という結果が示され、そして、これらはアンケート回答者のものであり、非通院者ではさらに悪い状況であろうことが示唆されました。

当方の関わる健康保険組合のレセプト分析でも、医療費は昨年比2割～3割減となっており、未受診、治療中断による病状の悪化が強く懸念されます。コロナ禍の中、患者さんの中にはどのように行動してよいのかわからず不安の方も多いためと思います。逼迫した医療状況ではありますが、医療者は待つだけでなく、このような方々に積極的に働きかけることも必要なのではないかと思います。

さてさて、学会は多くの学びを得る機会だけでなく、現地に行き、その土地の空気を吸い、美味しいものを食べ、美味しいお酒を味わうことも楽しみの一つでした。オンデマンドは何度も聞き返せるという素晴らしい面もある一方、やはり現地に行き、大いに語らい、美味しいものを食べ、学会を楽しみたいなどあらためて思った今年度の学会でした。

【当法人評議員】

女子栄養大学栄養科学研究所

高橋 大悟 [管理栄養士]



事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受け付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00~12:00 / 13:00~16:00にお電話ください。よろしくお願いいたします。

《2021年度年会費納入をお願いいたします》

2021年度年会費は、ご自身のマイページ「年会費納入のお願い」より、ご納入いただけます。会員継続される方は、**3月31日(水)**までにご納入をお願いいたします。

*** 2021年度年会費 ***	
納入期間	1月12日(火)~3月31日(水)
金額	5,000円

お悩み解決 《マイページ Q&A》

Q. ホームページでパスワードを再発行したのに届かないのですが、どうしたらいいですか？

- A. パスワードは、会員IDに対して送信されます。すなわち、当法人にご登録されているメールアドレスにのみ送信されます。お心あたりのメールアドレス全てでお試しいただいても届かない場合は、「※会員IDをお忘れの方はこちらから」より、まず会員IDをお問い合わせください。追って事務局よりご連絡いたします。
- 会員ID（メールアドレス）は正しいのにパスワードが届かない方は、いま一度、当法人のアドレスが受信可能な状態かお調べください。特に携帯電話のメールアドレスは、当法人のアドレスを受信可能なアドレスに設定してからパスワードの再発行を行ってください。また、ご使用のメールソフトで迷惑メールとみなされている場合がありますのでお確かめください。



研究会等のセミナー・イベント情報

◆ 主催事業 ◆ 共催・後援事業 □ その他

◆ 糖尿病災害対策委員会 第8回医療者向けセミナー

申込必要

テーマ：『われわれ医療者の災害対策Update～あらゆる災害への備えを今こそ患者さんに伝えよう～』
 開催日：2021年3月11日（木）19：20～21：00
 参加方法：Zoomにて開催いたします
 申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください。（3/6締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

参加費
無料

オン
ライン

◆ 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第68回例会

申込必要

テーマ：『ウィズコロナにおける糖尿病患者のメンタルケア～新たな時代の医のアートを考えよう～』
 開催日：2021年3月15日（月）19：20～21：00
 参加方法：Zoomにて開催いたします
 参加費：当法人会員 無料 / 一般 2,000円
 申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください。（3/10締切）
 ☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位
 ☆日糖協療養指導医取得のための講習会 申請中

参加費
無料

オン
ライン

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
<https://www.cad-net.jp/>
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



昨年を思い返すと、1月頃は同僚とぼたん鍋(猪鍋)を楽しく食べていたのですが、丁度この時期にダイヤモンド・プリンセス号でのCOVID-19感染拡大が始まったことは今でも記憶に残っています。今は緊急事態宣言が発令され楽しい会食も我慢の日々が続きますが、感染収束が来た時は、また食べに行きたいですね。（広報委員 長谷部 翼）

